

New
そえだ

世代交代



無所属

47歳

40代の新しい風、添田に!

みしょう

くぼた実生

くぼた実生のプロフィール

- 略歴 1975年 3月12日生まれ (47歳)
1993年 田川高等学校卒業 (45回生)
1998年 九州大学文学部哲学科倫理学卒業
2006年 添田町議会議員 (現在4期目)
- 議会 総務文教常任委員会
議会広報常任委員会 (委員長)
- 仕事 社会福祉法人猪位金福祉会 暖家の丘 事務次長
- 所属 添田町知ってもらい隊、
輝け議会!!対話による議会活性化フォーラム、
もやい九州 (行政経営フォーラム九州)、広太郎塾、
NPO法人シンクタンク九州
- 家族 宮子(妻) 夏子(12歳) 秋葉(10歳)

くぼた実生のサイト



自己紹介



note(日記)



Facebook



ツイッター



友だち募集中♪



一般質問



連絡先

<http://smappo.jp/jjqb2bue>



応援サポーター募集!

- 後援会事務所 / 自宅 〒824-0602 添田町添田 1939-25 (町二)
- 連絡先 TEL : 090-2963-7484 ✉ : misho@sweet.ocn.ne.jp
- ★ご意見をお寄せください

後援会討議資料



「実生」とは、タネから育った植物のことです。
添田町に生まれた私は、両親をはじめ、多くの皆さん、
添田の恵のおかげでここまで成長することができました。

次の成長のステージへ。
行橋市、みやこ町と40代のリーダーが誕生しました。
今川の下流から、「世代交代の新しい風」が吹いています。
添田町でも「世代交代」、新たなチャレンジです！！

何のためにやるのか、
何をやろうとしているのか、
私のオモイをコトバにまとめました。
住民の皆様との「ゆびきりげんまん」です。
4年後、コトバをカタチにできたのか、
一緒にチェックをしてください。

くぼた実生

目指すところと 目指す理由

何のためにやるのか。
リーダーの3つの役割から「ミッション」を掲げました。
どこを目指すのか。
10年後のありたい姿を「ビジョン」として描いています。
目指すところに到達するため、
キーワードを大切にし、政策・施策を実施していきます。

★みしょうの ミッション

■ 住民のリーダー

住民の力を引き出し、
住民が望む町のありたい姿を実現する。

■ 役場のリーダー

職員の力を引き出し、
働きがいのある役場にする。

■ 111年目のリーダー

添田の力を引き出し、
ワクワクする町の未来を
次世代につなぐ。

★ビジョン

(10年後のありたい姿)

「みんなでまちづくり」を実践し、
一人ひとりが幸せを
実感できる町

★まちづくりの キーワード & ★政策の4本柱

対話

カイゼン

コラボ

思いやり

くわしくは次のページを
ご覧ください

くぼた実生^{みしょう} 政策の4本柱



Newそえだ

その1 対話でつくるまちづくり

- 1 全行政区で毎年「対話」
- 2 会議も「対話」でやりましょう
- 3 「対話」を学んで自分のものに

その3 コラボでまちづくり

- 7 ふるさと住民票[®]制度
- 8 「日本で最も美しい村」に加盟
- 9 「ひこらぼ」でプロジェクト誘致

その2 カイゼン運動で役場づくり

- 4 添田町でもカイゼン運動
- 5 研修派遣で人財育成
- 6 地域に飛び出そう♪

その4 安心感のもてる財政づくり

- 10 新しい財政のルールを
- 11 納得できる予算づくり
- 12 将来に備えた貯金づくり

対話でつくるまちづくり



「なんでなの？」住民の方からよく聞く言葉です。町の情報や説明が届いてなく、町がやろうとしていることに納得できていない様子。

「みんなでまちづくり」を進めるには、まずはお互いを知り、理解することが大事です。あらゆる場面で対話を行う「対話の町」にします。

1 毎年 34 行政区で 町長との対話の場をつくりま

議員のときも「対話」を大切に活動してきました。声を聴き、話をする。あたり前のことですが、それがまちづくりの基本だと痛感しています。より多くの皆さんが気楽に参加できるよう、毎年、すべての行政区で町長との対話の場をつくりま



「気楽に議員とフリートーク」(R2.2)

2 審議会などの会議に 対話を導入し、 会議のあり方を変えます。

会議の決定が町の今後に影響します。発言しやすい場をつくるには、対話の手法が必要。対話によって、参加者が納得できる会議にします。

3 住民、職員が対話を 学べる機会をつくりま

あらゆる場面で対話ができるよう、専門家を招き対話を学びましょう。学んだことを活かして、一人ひとりが「対話の達人」になりましょう。

カイゼン運動で役場づくり

役場はまちづくりを推進する一番大きな団体です。役場の職員・組織が、やりがいをもって働いているかどうかはとても大事です。住民のために働き、住民の喜びを職員の喜びとする組織に変わります。

4 カイゼン運動の発祥の地である福岡市の事例に学びます。 (添田版DNA運動)

全国の自治体でも「カイゼン運動」が実施されています。職員自身が業務改善に取り組み、サービスの向上、経費の削減だけでなく、職員の働きがい向上にもなっています。その発端となった福岡市のDNA運動に学び、添田で活かします。

DNA

福岡市のDNA運動
D 「できる」からはじめよう
N 納得した仕事をしよう
A 遊び心も忘れずに



5 外部研修（自治大・大学など）に職員を派遣し、人財を育成します。

高度で専門的な研修を学ぶことで、次代の幹部となる職員を育成します。全国の仲間との交流も職員・役場の財産になります。

6 「地域に飛び出す公務員」を応援し、首長連合に参加します。

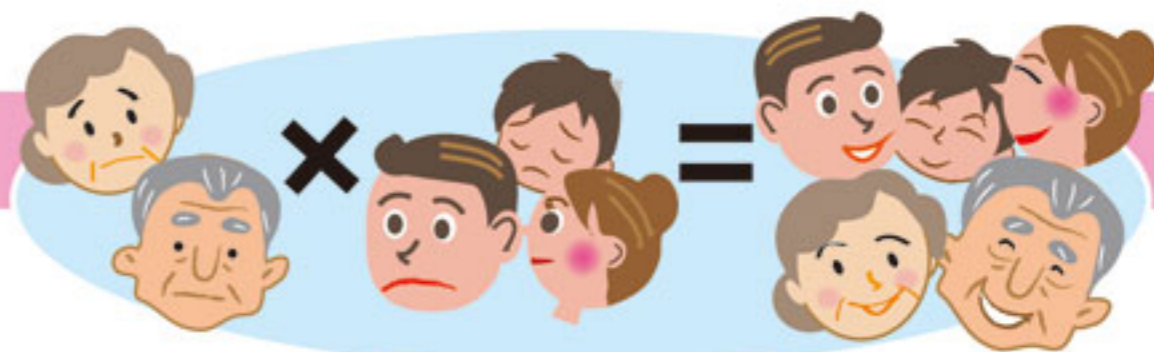
消防団、地域行事など役場の仕事以外にも地域で活躍している職員。地域での活動を応援し、さらに促進します。

コラボでまちづくり

「コラボ(コラボレーション)とは「一緒にやる」ことです。自分だけでなく、他の方と一緒にやることで、それぞれの強みを活かすことができます。個人だけでなく、団体も同じです。いろんなコラボでまちづくりを進めます。

7 ふるさと住民票[®]制度を導入し、町外との関係人口を増やします。

町外在住の方に、添田のまちづくりに関わってもらうため「ふるさと住民票[®]制度」を導入します。添田出身の方、応援してくれる方に「ふるさと住民」になってもらいましょう。目指せ、ふるさと住民4年で500人！(添田住民の5%)



8 「日本で最も美しい村」連合へ加盟し、加盟自治体と交流し、魅力を高め合います。

美しい添田を多くの人に知ってもらい、後世に残してゆくため、連合(62自治体)に加盟します。添田のよさを全国にアピールします。

9 添田版「ひこらぼ」をつくり、プロジェクトの誘致を目指します。

町内外の企業・個人から提案を募り、カタチにします。埼玉県横瀬町(よこらぼ)では、100件以上を採択。例えば、「小児科オンライン」の導入など。

安心感のもてる財政づくり

何をやるにもお金が必要。町の財政が「厳しい」とは言うけれど、どこまで見えているのでしょうか。財政のことをわかりやすく知ってもらい、その上で何に使うのかを決定していくことが大事です。人口推移を踏まえて、安心感のもてる財政を維持します。

10 財政健全化条例を制定し、 新たなルールをつくります。

大きな予算が必要な事業は計画時に見込みを作成するなど、財政の状況が見える仕組みをつくります。

11 各課・各職員が納得した事業を 実施できるよう、枠予算を導入します。

各課に予算の枠と権限を渡し、自分達で優先順位を考えて予算を組み、事業を実施します。

12 公共施設の更新に備え、 特定目的基金を設置します。

子どもや孫の世代にツケを回さないように、現世代のお金から貯金（基金）づくりをします。



こんなこともします

- 13 新学校は、コミュニティスクールとしてみんなで作る学校に。
- 14 自然アウトドアパーク(歓遊舎横)は、学校の教育にも活用。
- 15 コロナウイルス対策は、状況に合わせて適切に。
- 16 企業版ふるさと納税の活用で、企業ともコラボを。
- 17 農林業の補助金情報を収集し、発信することでサポート。
- 18 空き家を活用して「セーフティーネット住宅」（準公営住宅）に。
- 19 県の健康アプリを活用し、町ぐるみで健康づくり。
- 20 遊具の計画的設置で、子ども達の遊び場づくり。

